

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
1	地域が一体となった子育てしやすいまちづくり ～食育をきっかけとして～	宇都宮大学 大森研究室	
		鈴木 真季	宇都宮大学 教育学部
		指導教官 氏 名	大森 玲子

1 提案の要旨

核家族化や、共働き世代の増加、ご近所付き合いの希薄化に伴い、子育ての孤立化が問題となっている。少子超高齢化が進み、人口減少時代が到来している現代、豊かな街をつくっていくためには、活気あふれる街の原動力となる“子ども”が大きな可能性を秘めていると考える。しかしながら、子育ての孤立化から、母親の子育ての不安や悩みによるストレスが、子どもに向けられることは少なくない。宇都宮市の子ども・子育て支援に関するニーズ調査によると、いろいろして、子どもにつらくあたった経験(問 38)について、「ヒステリックに怒鳴った」64.3%、「たたいた」33.6%、「相手をしなかった(無視した)」30.4%など、多くの方が経験を有している。(図1)

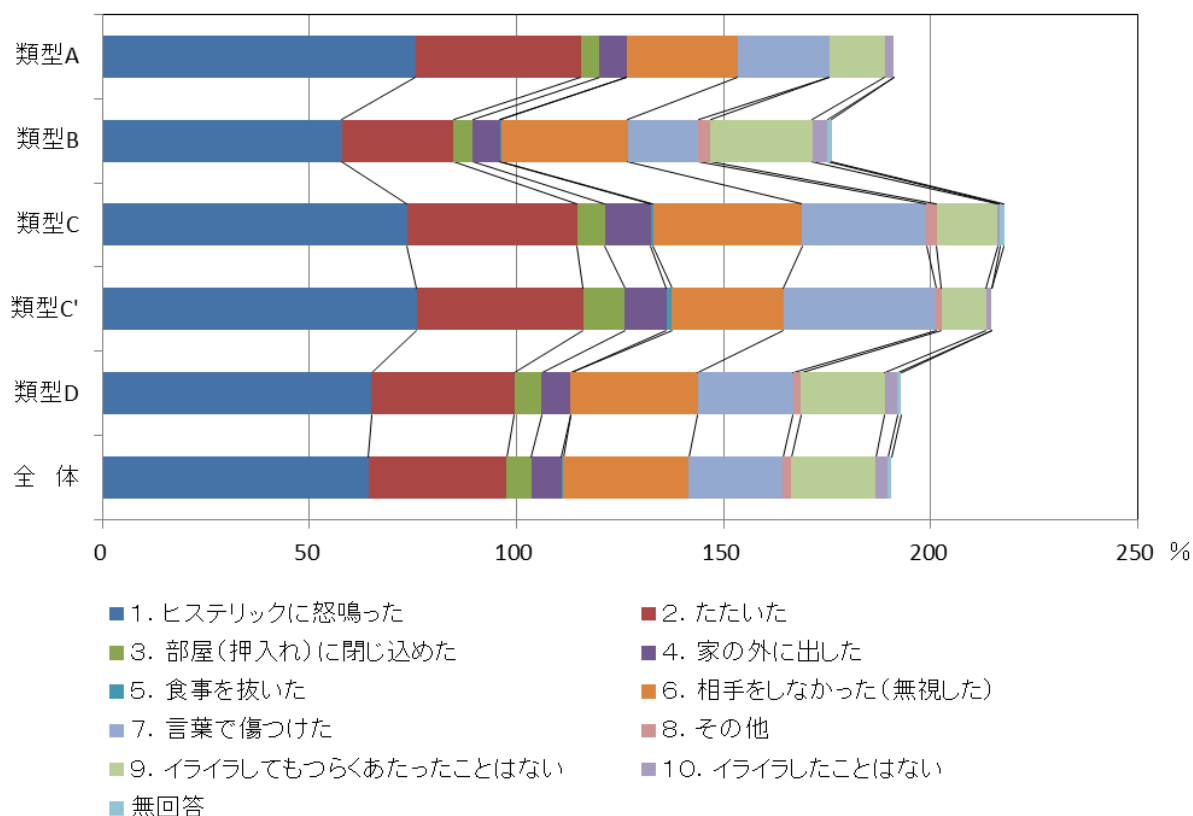


図1 いらいらして、子どもにつらくあたった経験

(資料：宇都宮市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査)

子どもが心身共に健康に成長するために、市が一体となって社会全体で子育てをしていくことができるような環境を整えることが重要ではないだろうか。同調査では、子育て世代が求める子育て支援について、子連れでも楽しめる場所やイベントを増やすことや、親子が気軽に集まることのできる身近な遊びの場がほしいとの回答が多くなっている。

そこで、子育て世代だけでなく、地域の住民が気軽に集うことができるコミュニティスペースを提案することで、母親が社会と切り離されずに外に出ていきやすい環境を作るとともに、家にこもりがちな高齢者をはじめとした地域の住民とのつながりをつくり、様々な人とのつながりの中で子どもが豊かに育っていくことができる社会をめざしていきたい。そのつながりのきっかけを、どの世代にも共通する一生涯のテーマである“食育”とすることで、宇都宮市の食育推進にも貢献していくことができると考え、市民を対象とした“食育楽校”を提案することで、宇都宮市が子育てする場として選ばれるような街を作っていきたい。

2 提案の目標

子育て世代や、高齢者が気軽に集うことのできる機会を提案することで、地域の結びつきを強め、人口減少時代においても活気のある豊かな街にしていきたい。その機会を、子どもから高齢者までが楽しく実践的に学ぶことができる“食育楽校”（図2）とし継続的に行うことで、地域住民同士のつながりを作るだけでなく、市民の食育への意識を高め、生活の質の向上を目指していきたい。また、子育て世代が積極的に外に出られるような環境づくりをして、“地域に開けた子育てしやすい街・宇都宮”のタイトルを得ていきたい。

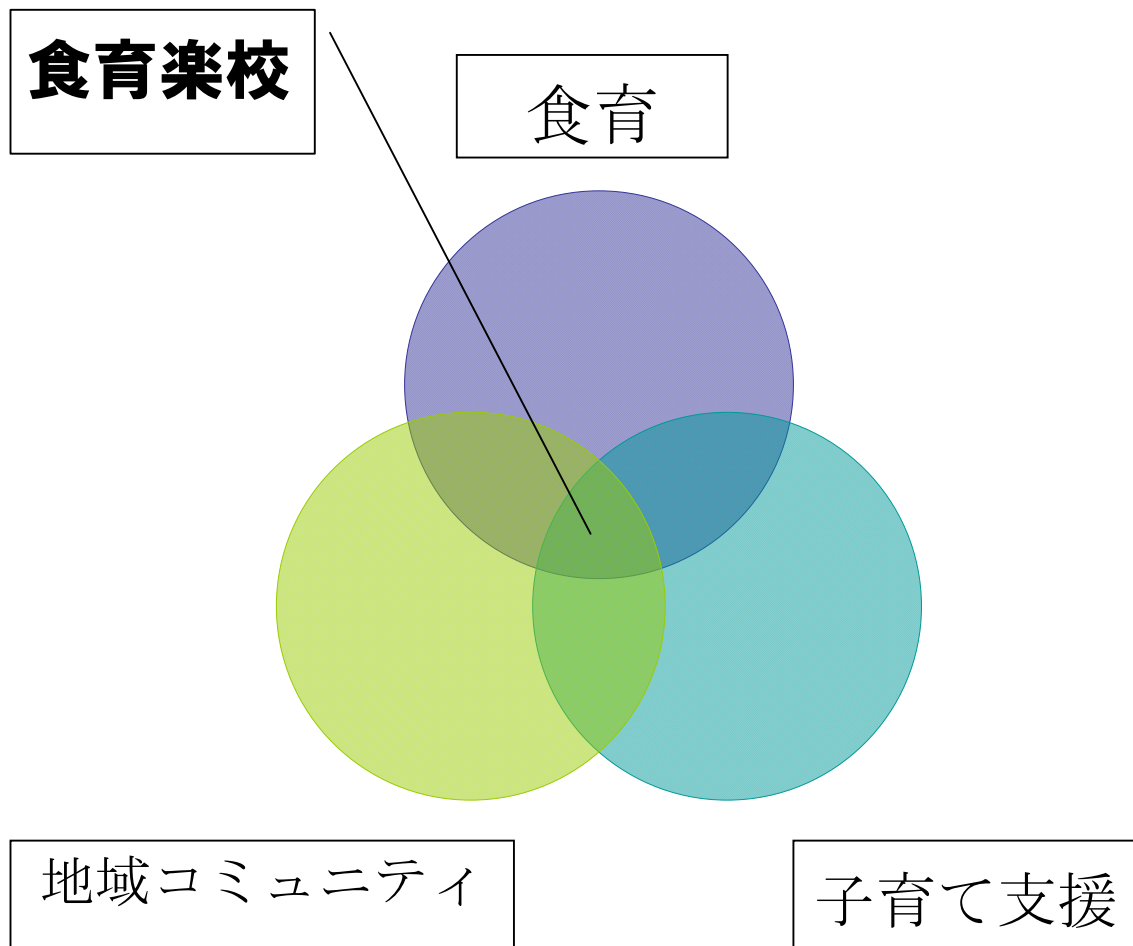


図2 食育楽校のイメージ

3 現状の分析と課題

子育て支援に関して、認定こども園で行われた子育て支援活動に参加した未就学児の子どもがいる母親にインタビューしたところ、子育てサロンなどで、子育て世代の人とは関わる機会があるが、地域の人と関わる機会はあまりないとのことだった。市の子育てサロンの内容を調べてみると、「グランママと遊ぼう」という内容もあったが、頻度的には月に一回程度と少なかった。

子育て支援に関するインタビューをした際、子どもの年齢が小さいと同世代だけで集まる場の方が通いやすいとの意見もあり、母親の通いやすさを考慮したうえでの頻度なのかと考える。

表1 子育てサロンの内容（11月）

日	曜	サロン名	行事名	時間	対象など
4	火	みずほの	グランママと遊ぼう(グランママと一緒に)	午前10時～正午	
		みずほの	身体計測	午前11時30分～正午	0歳児は午後2時30分～
		とよさと	12月のカレンダーを作ろう(手型)	午前10時～11時・午後1時～2時	0歳児
5	水	とまつり	焼いもをしましょう ※天候により変更あります。	午前9時30分～10時30分	
		やよい	うたってあそぼう	午前11時～11時30分	
10	月	石井	ナースの健康ミニ講座(感染症)	午前11時～	
		竹林	ナースの情報ステーション(気管支炎)	午後3時～	
11	火	北雀宮	ナースの健康ミニ講座「胃腸炎」	午後3時～	
		ゆずのこ	つくってあ・そ・ぼ(木の実を使つての製作)	午前10時30分～・午後1時30分～	
		とまつり	陶芸(絵付けをしましょう) ※サロンにて要予約	午前10時～11時	
12	水	竹林	楽しい製作(クリスマス)	午前10時～午後3時	
		西部	マイスプーンで離乳食	午後2時～3時	0歳児
		ゆずのこ	いっしょにあ・そ・ぼ(リズム遊び)	午前10時15分～	0・1・2歳児
		みずほの	保健師講話「冬に向けてのスキンケア」	午後2時～3時	
		やよい	絵本の読み聞かせ	午前11時～11時30分	
		とよさと	身体計測・育児相談	午前10時～11時・午後1時～2時	
14	金	石井	わーいわい(作ってあそぼ)	午前10時～	
		宝木	親子リトミック ※サロンにて事前申し込み(定員あり)	午前10時30分～	
17	月	ゆずのこ	身体計測・子育て相談	午前10時～	
		なかよし	身体計測と健康相談・ナースのお話	午後1時～3時	
		宝木	誕生会	午前11時～・午後2時30分～	
18	火	北雀宮	誕生会	午前11時～・午後3時～	
		ゆずのこ	誕生会	午前11時～	
		みずほの	親子リトミック	①午前11時30分～正午 ②午後1時30分～2時	①1・2・3歳児 ②0歳児
		とよさと	12月のカレンダーを作ろう(手型)	午前10時～11時・午後1時～2時	1・2歳児
19	水	石井	うきうきタイム(保育園児との交流)	午前11時～	
		石井	離乳食ミニ講座(9・12ヵ月頃)給食紹介	午後3時～	0歳児
		竹林	モグモグごっくんデー(給食・離乳食紹介)	午後3時～	0歳児
		西部	みんなでつくっちゃオ「ミヤリーちゃんを折ろう」	午前10時30分～11時30分	
		北雀宮	ふれあいツインズ(ツインズの交流)	午後2時～	
		ゆずのこ	食育デー	午前11時～	
		とまつり	体操あそび	午前10時30分～11時	
		やよい	モンテッソーリ教育の体験	午前11時～11時30分	
20	木	なかよし	ママと作ろう	午前10時～午後3時	
21	金	とよさと	園児とあそぼう	午前10時30分～	
25	火	中央	誕生会	午前11時～・午後2時30分～	午後は0歳児
26	水	竹林	誕生会	午前11時～・午後3時～	
		なかよし	誕生会	午前11時～	
		宝木	ベビーマッサージ ※概ね10ヶ月以下、サロンにて事前申し込み	午後1時30分～	
		とまつり	パースデーのつどい	午前11時～	
		やよい	誕生会	午前11時～11時30分	
27	木	西部	わいわい劇場(保育園児との交流)	午前11時～11時15分	
		北雀宮	楽しい製作「クリスマスグッズ」	午前10時～午後3時	

(資料：宇都宮市子ども部 保育課 事業支援グループ)

また、子どもに関する事件が多発している現代、地域との関わりを避けたい人が多いのかと思いきや、地域とのつながりを深めることで、地域の人に家庭の状況などを知ってもらい、一時的に子どもを預かってもらったり、子どもが大きくなり、一人で出かけたりするようになったときに、地域の人と一緒に見守ってもらいたいとの意見が多く聞かれた。インタビューした人の中には実際に、近所のおじいちゃんおばあちゃんの家遊びに行ったりするくらいの関係を作っている家庭もあった。しかしながら、今回インタビューしたのは認定こども園で行われた子育て支援活動に参加した母親だったため、もともと地域交流に興味がある方に偏りがあると考えられる。

市の調査によると、地域の子育て支援事業の利用状況について地域子育て支援拠点事業の利用（問 25）は「利用していない」79.7%となっており、今後の利用回数（問 26）は「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」61.3%であった。

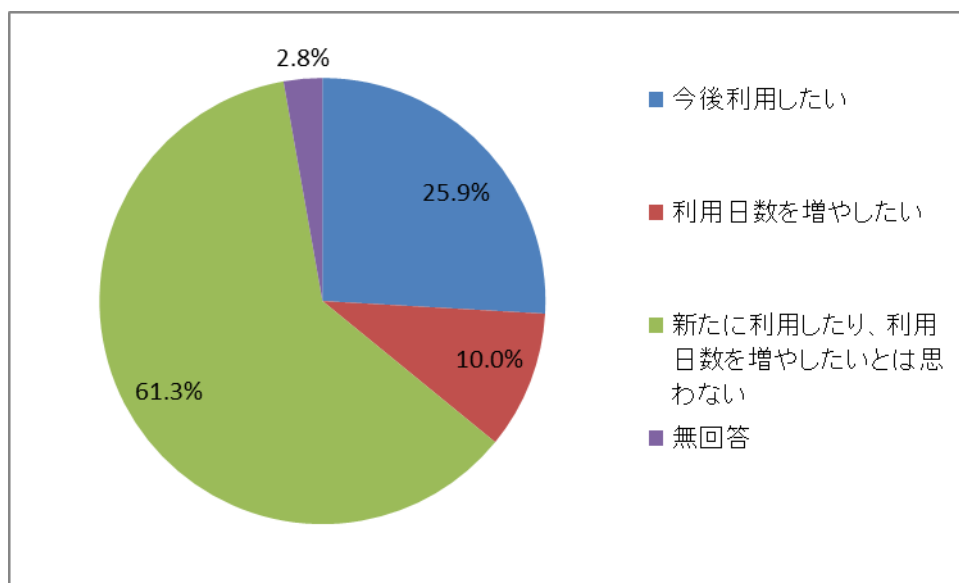


図3 地域の子育て支援事業の利用状況

（資料：宇都宮市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査）

今後、子育て支援活動を行うにあたって、大きな課題となるのが、このように子育て支援にあまり興味が無い、もしくは人と関わることに消極的な母親に対してどのようにアプローチするかである。まずは、現在子育て支援事業を利用していないが、今後利用したいと回答している母親に働きかけていき、口コミなどを通して子育て支援事業への興味関心が広がっていくようにしていくことが有効なのではないだろうか。

同調査によると、今後どのような子育て支援の充実を図ってほしいか（問 51）について、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所やイベントの機会を増やして欲しい」62.1%、「親子が安心して気軽に集まれる身近な遊びの場が欲しい」52.9%との結果が出ている。

これらの現状を踏まえて、地域における子育て支援活動である“食育楽校”の検討を行っていく。

市内の認定こども園で行われた、未就園児の親子向けの子育て支援活動に参加させていただいた際に、この流れを参考にしたいと考えた。体験は、子どもと母親で活動し、グミが固まるまでの時間で講師の先生の講話を聞き、母親同士で歓談し、最後に出来上がったグミの試食をするという流れであった。子どもたちはグミづくりの後半から集中力が途切れ始めたので、遊びたい子どもは部屋の後ろに設けられたスペースで、保育者と一緒にブロックなどの玩具で遊んでいた。講話の間も、母親から離れない子も見られ、遊ぶスペースと、子どもをみている保育者がいなければせっかくの講話であっても聞き逃してしまう場面がみられた。母親がしっかりと講和に集中できる環境づくりにも配慮する必要性が感じられた。



図4 子育て支援の案内



図5 講話の様子

4 施策事業の提案

① 対象

対象は、その地域に住む未就園児の親子、60歳以上の市民である。特に未就園児がいる家庭では、子どもがいると周りの人に迷惑をかけてしまう、おむつ交換の場などの環境が整っていないといったさまざまな理由から、外に出ることをためらい、家にこもりがちになってしまう。子育ての不安や悩みからくるストレスを解消するためにも、“食育楽校”が外に出ていく良い機会になればよいと思う。

また、高齢者に向けて市民講座を開催している方のお話によると、健康なのに外に出るきっかけがなく、「やることがない」と嘆く高齢者が多いとのことだった。内閣府の調査によると、60歳以上の高齢者の59.2%は何らかのグループ活動に参加している(図6)。今後の参加意向については、参加したい(「参加したい」、「参加したいが、事情があって参加できない」いずれかを回答した人の計)と考える人は約7割となっており、過去の調査と比較して増加している(図7)。

図1-2-31 高齢者のグループ活動への参加状況(複数回答)

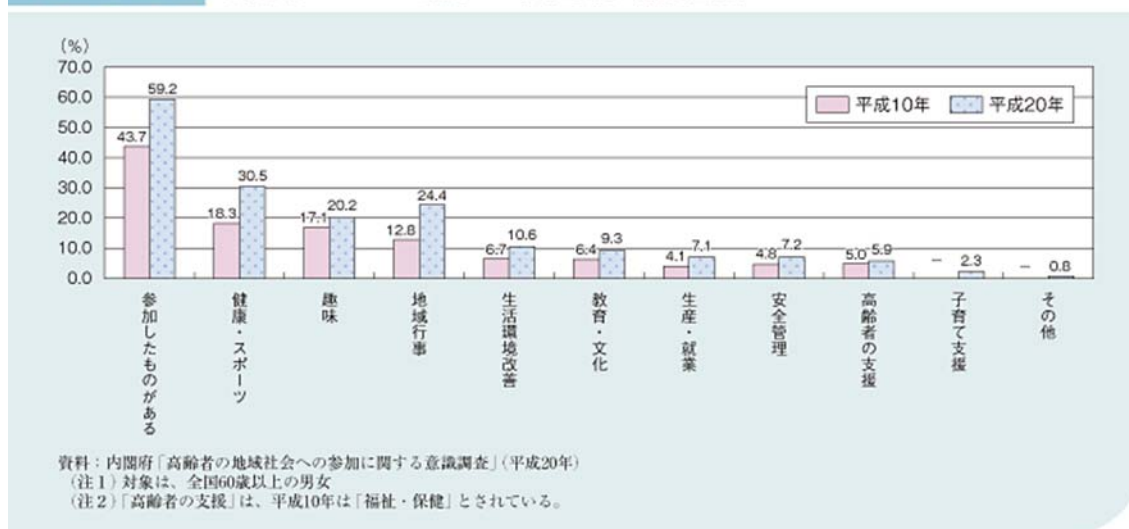


図6 高齢者のグループ参加状況

(資料：内閣府 http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/gaiyou/s1_2_5.html)

図 1-2-32 高齢者のグループ活動への参加意向

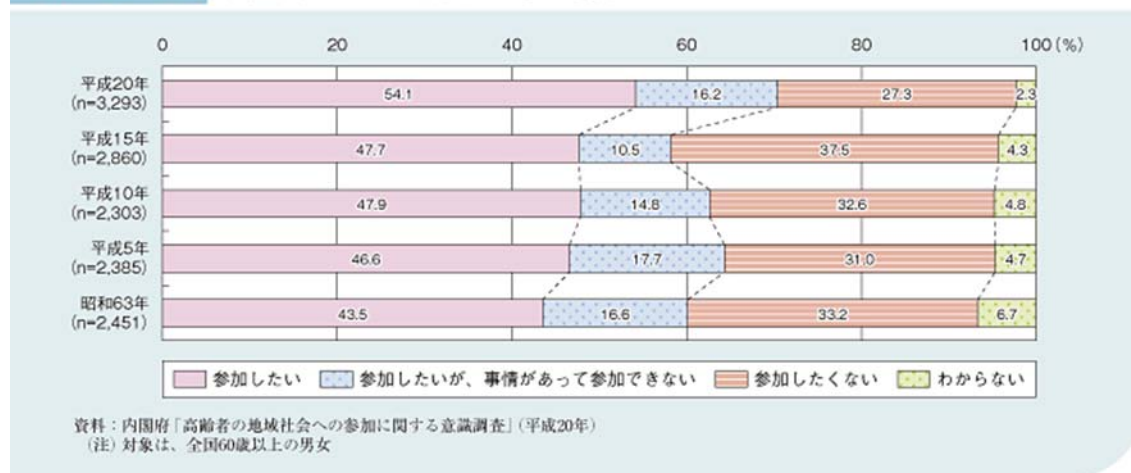


図 7 高齢者のグループ活動への参加意向

(資料：内閣府 http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/gaiyou/s1_2_5.html)

超高齢社会とくると、ネガティブな印象を受けるが、高齢者が多い時代だからこそ、高齢者が社会で活躍する機会をつくるのが、健康寿命を延ばしていくことにつながり、時代の流れに則した豊かな街になっていくのではないだろうか。未就園児がいる母親に、高齢者と交流する機会についてインタビューしたところ、「子どもはおじいちゃんおばあちゃんが大好きなので機会があれば交流したい」「核家族で近くに祖父母がいないため、近所のおじいちゃんおばあちゃんとなつなかりをつくりたい」「実際に、現在近所のおじいちゃんおばあちゃんに子どもをみていてもうことがある」というような、地域の高齢者との交流に対してポジティブな回答が返ってきた。また、食育楽校で作った関係をその場限りではなく、普段の生活でも積み重ねていくことができるよう、基本は対象を各地域で限定し、地域での結びつきを強めていくようにしたい。

② システム

食育楽校は一度きりの実施が目的ではなく、継続的に行うことに意味がある。地域ごとに決められた月一回の日程と内容が書かれたちらしを保育園や、幼稚園、保健所などで配布し、参加者を募集する。高齢者へのアプローチは、回覧板での宣伝や、高齢者サロンなどでちらしを配布し、参加に積極的な人を通じて、お友だちを誘い合いながら参加者を増やしていきたい。途中の回からも参加ができるようにし、参加者は出席カードが配布され、参加するごとにスタンプをもらうという流れを考えている。全日程に参加すれば、15個のスタンプがたまり、食育に関する知識も向上していくことを目指していきたい。

【食育楽校〇〇地区出席カード】

氏名 ()

① ☒ ② ☒ ③ ☐ ④ ☐ ⑤ ☐

⑥ ☐ ⑦ ☐ ⑧ ☐ ⑨ ☐ ⑩ ☐

⑪ ☐ ⑫ ☐ ⑬ ☐ ⑭ ☐ ⑮ ☐

③ 場所

市内26か所のコミュニティセンター、27か所の生涯学習センターと公民館、3か所の保健センター、または大学などが考えられる。地区ごとに行うことで、できるだけ家から近い場所で通いやすく、この食育楽校をきっかけに普段の生活でも出会える場面が増え、より深いつながりができることを期待したい。

④ 内容

内容として考えているのは子どもと一緒に体験することができる活動である。実際に体験することがあると、子どもが食に関して興味を持つきっかけにもなり、子どもの食育の推進にもつながる。例えば、高齢にしたいのが、おばあちゃんの料理教室である。インタビューの回答の中に、高齢者が講師の先生となって料理教室を開催するといった活動に参加してみたいとの声が上がった。また、以前、高齢者の方々が集まっている中でお話を聞く機会があった時に、料理教室を行いたいとおっしゃっていた方がいたことを思い出した。季節に合わせて、おせち料理や団子づくりをしたり、地元で採れた野菜のおいしい食べ方を教わったり、内容は集まったときに会話の中で、リクエストを聞き、取り入れていきたい。

第一回 おばあちゃんのお料理教室～お団子をつくろう～

・場所 宇都宮大学教育学部棟 調理実習室

・一日の流れ

10時 受付

一日の流れを説明

講師紹介

各テーブルで自己紹介

団子づくり開始

団子をゆでている間に、あんこづくり

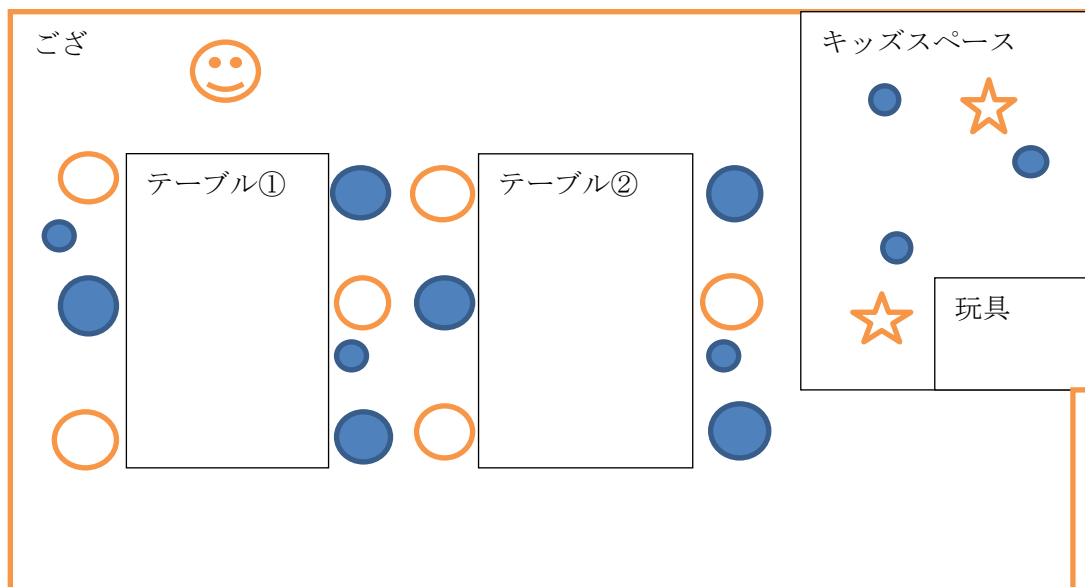
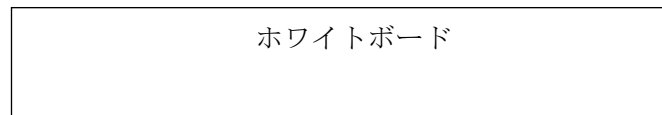
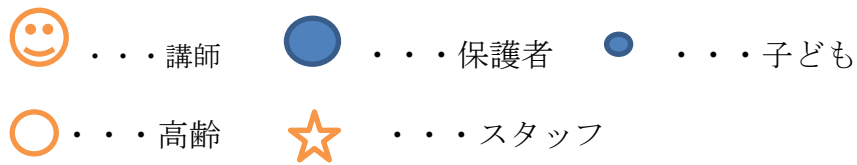
試食

12時半 解散

今回は、地域のおばあちゃんに講師を依頼し、大学の試食室と調理室を使用する。主活動は子どもたちと一緒に団子を丸める体験である。その活動は、ござを敷き低いテーブルを置いた試食室で行い、その団子をゆでている間には、子ども達は係りのスタッフとそのまま試食室で遊び、お母さん方は調理室へ移動し、あんこの作り方を講師の先生に指導していただく。お母さんと離れたくない子は、調理室の後ろに準備してあるキッズスペースでスタッフとともに遊ぶ。保育担当のスタッフがつくことで、講師の方の話を聞くことに集中できる環境を整えることが重要である。

試食室のレイアウトからもわかるように、高齢者の方とお母さん方が交じり合うように席を指定することで、両者がコミュニケーションをとりやすいように配慮する。

☆試食室のレイアウト



下の図が、本提案の食育楽校 第一回～おばあちゃんの料理教室～のポスターである。地域間交流についてのインタビューを通して、高齢者、子育て世代の双方の需要があるにも関わらず、その間に入る人がいないがために実現が難しく感じられるが、二者をつなげるきっかけがあれば、今後のより豊かな社会への発展への希望は大きいと感じる。そのきっかけとして、食育楽校を提案することで、宇都宮市が、地域のつながりを作り、地域が一体となって子どもを守り育てていくことができるようなまちにしていきたい。

食育楽校〇〇地区

～食育でつながる地域の学校～

食育楽校で地域のつながり作いませんか??

- ・子どもと一緒に楽しみたい!
- ・地域の人と交流したい!
- ・食育に興味がある!
- ・ご近所付き合いのきっかけがほしい!
- ・世代間交流がしたい!

ぜひ、気軽に参加してください♪



～第一回～

おばあちゃんのお料理教室～お団子をつくろう～

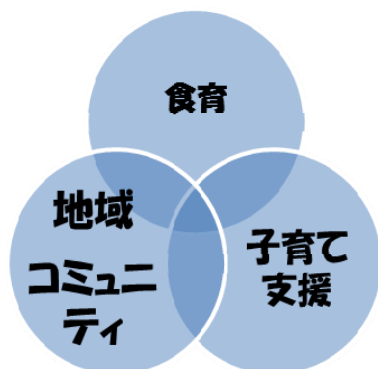
【定員】〇〇地区在住の未就園児親子先着 6組様

〇〇地区在住の60歳以上の方 6名様

【日時】〇月〇日〇曜日 10時～12時30分

【場所】宇都宮大学教育学部棟 調理室

【持ちもの】エプロン 三角巾 上履き



食育楽校とは・・・

月に一度の、子どもと一緒に楽しめる体験講座。
地域に住む子育てママと、おじいちゃんおばあちゃん
と一緒に食に関する活動をすることで
食への知識・関心が高まるだけでなく
地域のつながりを作るきっかけとなる場です♪

